

失われた十年

稲宮 健一

賃金が上がらない現状を失われた10年とか、20年とか言われている。先ごろ退任した黒田元総裁は異次元の緩和と言ってゼロ金利政策を続けたが、残念ながら2%の成長は達成できなかった。以下は在職中は長く工場勤務の経験のある経済に弱い技術屋の独り言である。

10年程間に長野の飯田市に行ったことがある。諏訪湖を中心にこの付近は精密機器のメツカと地理の時間に習った。時計、カメラ、オルゴール、精密部品、などで、山間部では耕地に恵まれなかったので、スイスと並び微細な技能を駆使する産業が発達したと覚えていた。しかし、現在のこの付近に工場はあるが、歯抜けのような状態で、街全体が閑散という活気がない。世界の精密工業製品への需要がなくなつた訳ではない。安い労働力を求めて、日本を取り巻く国々に工場を移転していった結果である。

移転した暫くは、かの地と日本の間に大きな賃金格差があつて移転の意義があつたが、現地の賃金の上昇があつて、段々のメリットが少なくなつてきた。さらに、製造機械を使いこなし、現地の技能者の能力が段々の向上して行つた。特にこの効果は著しい。日本では工業製品の製造経験さらに、離れていても管理技術確立していると言っても、現場を離れた技術者、技能者の質は劣化するばかりで金色の卵は産れない。

当てずっぽうであるが、若し、国内の賃金だけでなく、製品製造に関わるこの地域全員を含めた賃金の上昇率を見るなら、賃上げは達成してゐるのではないか。ただ、国内の賃金が上がらないということではないか。

日本では、事を興す時、左を見て、右を見て、乗り遅れてはいけなないと、一斉に動き出す。この時、一歩下がって、事柄に推移を自分なりに考えを巡らし、自分の地歩を確保することが肝要と考える。

例えば、高齢化社会の到来はこの地域全体の傾向である。ロボティクスの技術を活用して、看護師の労力を補助するような軽量の作業着や、炎天下の作業環境を改善する補助装置など。